

令和5年8月4日

令和5年度 学校関係者評価報告書

学校法人大原学園
大原スポーツ&メディカルヘルス専門学校難波校
学校関係者評価委員会

学校法人大原学園 大原スポーツ&メディカルヘルス専門学校難波校、学校関係者評価委員会は、令和4年度自己点検・評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下の通り報告致します。

1. 実施日

令和5年8月3日

2. 学校関係者評価委員

高島 玲佳 氏 (株式会社サップス)

吉原 敏高 氏 (株式会社サップス)

中辻 良平 氏 (医療法人相愛会 相原第二病院 事務部長)

(事務局)

宮路 信美 (大原学園難波校 校長)

藤川 宏明 (大原学園難波校 部長)

山本 省二 (大原学園難波校 課長)

松本 直樹 (大原学園難波校 課長)

令和4年度自己点検・評価の概要

(事務局)

大原スポーツ&メディカルヘルス専門学校難波校の2022年度における自己点検・評価については、全般的に良好な結果であった。学校運営は、意思決定システムが確立されており、円滑な運営が行われている。また、教育理念に基づいた運営方針が明確に定められており、教育理念を達成するための事業計画の策定、各種研修制度の確立を通じて有為な人材育成が行えている。また、学校運営として、予算計画・執行は規定に従って適切に行なわれており、財務状況も安定している。

昨年度は、学校関係者評価委員の皆様より、資格の合格率や実践的教育への取り組みについての評価をいただきながら、継続して即戦力となる卒業生の輩出、並びに実践的教育の充実につきアドバイスを頂戴した。資格取得においては、指導カリキュラムの精査、専門的スキルを習得するための実践的教育のブラッシュアップを図り、各種検定試験において安定した資格合格率ならびに就職率を指示することが出来た。今年度も引き続き高い実績を残すためには、教職員の資質向上は非常に重要であると考えている。

令和5年度 重点目標①

退学率の低減

<現状・達成指標>

事業計画における最重要課題の1つとして、退学率の低減に向けた取り組みを強化しているが、近年、経済的理由、精神疾患等で退学を余儀なくされる学生が増加している。

退学可能性がある学生の早期発見のために、教員の学生指導力（コミュニケーション能力）の向上、事例に基づく指導方法の確認、担当者間の情報共有を実施している。

<具体的方策>

ご家庭と連携した指導を実現できるように、退学の兆候が発見された段階で、保護者等との連絡を密にするようにしている。また、早期の段階で管理者含め指導に入るなど退学者の減少に努めている。

<学校関係者評価委員からの提言>

①職場でもある事だが、退学の希望が出た場合、周りの学生を巻き込んで、阻止できる事もあるのではないかと感じる。但し、プライベートに関わる部分でもあるため、十分に配慮し慎重に進める必要があると考える。

②金銭面や病気などで退学になることは致し方ないと思うが、学業や友人関係が問題であれば早い段階で解決することで未然に防ぐことが出来るのではないかと。大学では毎年多くの学生が退学をしている印象があるが、専門学校は教員や友人との関係性が強いことからある程度の対応は可能と考える。

令和5年度 重点目標①

教職員の資質向上

<現状・達成指標>

定期的に学生アンケートを実施するほか、上司の講義聴講等により専門性、教授力の把握・評価を行っている。また、企業等と連携した教員研修を実施し、学科ごとに目指す試験の制度や業界ニーズにあわせた教育を実現する教職員の資質向上に努めている。

<具体的方策>

年々学生の状況も多様化し、教員の学生指導に求められるスキルが高まっていることから、学園共通の教員研修への参加に加え、学生指導力に特化した研修の実施。更に自部署以外の管理職・ベテラン教員による講義研修も実施を計画している。

<学校関係者評価委員からの提言>

①教職員も学生とともに学び、自分自身の知識のアップデートやコミュニケーション能力の向上を図る必要がある。そうすることで学生と信頼関係が構築され、在学時のみならず卒業後も良好な関係が保てるのではないかと。また、時代に合わせた制度やニーズなどを理解し、それを学生に提供することで自ずと教職員の質が上がるのではないかと。ただし、変わらない基本的な事もあるため目新しいものばかりに注目するのではなく、基本に忠実であることも重要だと考える。

②教職員が病院の現場で見学などを行い、知識向上に努める事が出来れば一番良いと思うが、なかなか現場の受入が出来ないのが現状ではないかと。授業の上手、下手もあると思うが、自分の学生生活を考えると「良く自分の事をみてくれる、理解してくれている先生」が信頼できる先生として評価が高くなるのではないかと。学生との信頼関係が大切になってくると考える。

令和5年度 重点目標③

課外活動(クラブ)の支援

<現状・達成指標>

クラブ活動の環境を整備している。

<具体的方策>

社会情勢を鑑みクラブ活動を再開。今後募集活動を進め、活発化していく計画である。

<学校関係者評価委員からの提言>

①コース以外の学生と関われる場があることは、学生にしても良い環境だと感じる。また、普段勉強ばかりしている学生からすれば、良いストレス発散にもなるのではないかと。

②スポーツの学校なのでクラブ活動は重要だと考える。コロナ禍で満足に活動が出来なかった学生もいると予想され、専門学校でのクラブ活動が学校生活の満足度向上の一因になるのではないかと。また、クラブ活動を通じた人材育成が就職活動でも重要ではないかと考える。

全体評価と総括

(学校関係者評価委員)

今年度重点的に取り組む項目として、「退学率の低減」「教職員の資質向上」「課外活動(クラブ)の支援」が挙げられ、学校関係者評価委員として現場のニーズを肌で感じることの重要性について各種ご助言があった。実践的教育を検討していく方針は委員としてもその教育効果については同意見であるとともに教育効果を期待する声があった。今後も学校関係者一同、客観的な視点から様々な提言を行い、大原スポーツ&メディカルヘルス専門学校難波校が社会の信頼を得られるようご協力いただきたい。

(事務局)

大原スポーツ&メディカルヘルス専門学校難波校では、スポーツトレーナーやスポーツインストラクター等を目指すスポーツ系分野、医療事務や医療秘書等を目指す医療系分野を有しているが、資格取得および実技指導においても一定レベルの教育成果を残すことが出来た。今後も、高い専門性を有して社会で即戦力となる人材育成を担うことに変化はないが、新型コロナウイルス

感染拡大に伴い、就職活動やクラブ活動等に大きく影響している。業界や学生のニーズを的確に捉え、変化する状況に対応する必要がある。社会から専門学校に求められる知識・技能教育について、より良い教育が提供できるよう学校関係者評価委員会からのご助言を受け、常にブラッシュアップを図って参りたいと考える。

文責：松本 直樹